

4

人工呼吸用マスクの持ち方

1. E-C 法 (図12)

救助者の母指と示指で“C”の形を作りマスクと傷病者の顔面を密着させ、残る3指で“E”の形を作り下顎を持ち上げるとともに頭部を後屈する。片手でもマスクが保持できるため、救助者1人でもバッグ換気とマスク保持が可能であるが修練が必要である。ポイントは、気道確保を維持することとマスクを密着させることである。片手でマスク保持が困難な場合は両手で行い、バッグ換気は他の救助者が行う。



図12 E-C法.

救助者1人で気道確保と換気が可能である。母指と示指で「C」、残りの指で「E」を作ってマスクを保持する。マスクを押し付けるよりも、マスクに引き付ける感覚のほうがうまくいく。

2. 母指球法 (図13)

救助者の母指と母指の付け根の部分(母指球)をマスクの外側縁に沿って置き、傷病者



図13 母指球法.

両母指球と母指でマスクと顔面を密着し、中指と薬指で下顎角を挙上する。

6-6 用手的気管挿管 (digital intubation/tactile tracheal intubation)

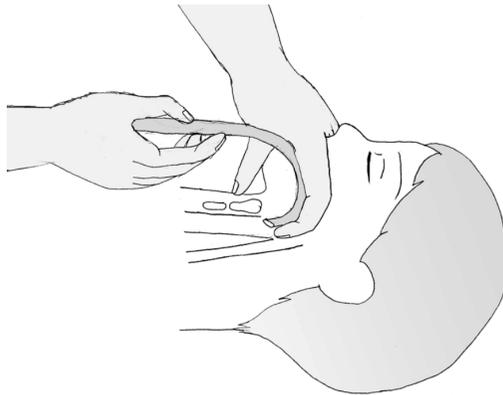
古くからある喉頭鏡を使わない気管挿管の手技の1つに、示指と中指の2本を用いた用手的挿管がある。この方法の適応はかなり限られるが、気管挿管の原点であり、上気道の解剖や位置関係を知る上でプラスであろう。次にその詳細を記す。

1 適 応

- ・体位やスペースが不十分で喉頭鏡による喉頭展開に制限がある場合。
- ・大量の分泌物、血液、吐物により視野が制限されている場合。
- ・解剖学的異常、病的肥満、短頸などで喉頭鏡による気管挿管が不可能で、ほかに手段がない場合。
- ・気管挿管の適応で、気管チューブはあるが、喉頭鏡がない、あるいは喉頭鏡が使えない場合。

2 手 技

- ・感染予防手袋を着用し、利き手の示指と中指を口腔内に挿入する。
- ・指で舌を根元までたどると“ざらざら”した舌扁桃に触れる。
- ・さらに舌扁桃を越えると、喉頭蓋に達する。2本の指で喉頭蓋の位置を確認し、喉頭蓋の下方へ気管チューブを誘導する(図①)。この時、気管チューブはスタイレットで“J”型にすると成功しやすい。



図①